

第19回群馬県河川整備計画審査会

開催場所：群馬県伊勢崎土木事務所 2階第一会議室、現場

出席委員：青井透、卯木達朗、内山充、岡本雅美、斎藤晋、清水義彦、林不二雄、
峰村宏、宮田裕紀枝、吉澤和具（出席10名） 敬称略

欠席委員：熊倉浩靖（欠席1名） 敬称略

事務局：河川課…荒井課長、八木次長、松本補佐、平形補佐、大前係長、
一倉主幹、野口主幹、筑井主幹、小暮主幹
前橋土木…松島副所長、井上補佐
伊勢崎土木…金田所長、齋藤係長

傍聴者：1名

議題：利根川中流圏域河川整備計画（変更）素案について

配布資料：次第

資料1 利根川中流圏域河川整備計画（本文）新旧対照表

資料2 「利根川中流圏域河川整備計画（変更）素案」に対する意見（意見回答様式）

1 開会

2 あいさつ（河川課長）

3 議題

①利根川中流圏域河川整備計画（変更）素案の説明

事務局より利根川中流圏域河川整備計画（変更）素案について、資料1により説明。

以下、審議内容

➤ 会長（清水委員）

それぞれのご専門の立場から、あるいは整備計画を見て一般の方がどのように利根川中流圏域の河川整備をやっていくのか、分かりにくい点や修正すべき点など、各委員からのご意見をいただきたい。

➤ 岡本委員

(P7)水利権内訳表に国許可分を追加予定との説明があったが、どのようなものがあるのか。

➤ 事務局

発電用水や農業用水等の特定水利権分である。

➤ 岡本委員

(P9)汚水処理人口普及率について、当該圏域には農業集落排水路があるが含まれているか。

➤ 事務局

含めている。汚水処理人口普及率の内訳としては、農業集落排水のほか、下水道、合併処理浄化槽、コミュニティプラントとなる。

➤ 岡本委員

(P11)維持流量に関する記載については、当該圏域は補給施設がないことから表現が難しいが、操作運用上の基準規定と考えている。

➤ 事務局

ダム等の補給施設は国及び水機構が管理しており、また、群馬県として利水基準点が無いことから、維持流量は標記しないこととした。

- 岡本委員

最低限維持する流量の具体的数値を検討するのではなくて、必要な時期に最低限必要な流量を維持するように行政が努める（努力する）という文言に変えたらどうか。
- 会長（清水委員）

書きぶりについては、今後、岡本委員と相談し調整されたい。
- 吉澤委員

(P33)P11の本文に、自然と共生や環境・生き物との交わりに配慮した河川整備の推進という文言が入っており適切だと感じた。なお、「河床」を「河道」に変更した理由について伺いたい。
- 事務局

洗掘については、河床だけでなく側面も洗掘されることから「河床」に限定した書き方でなく「河道」という表現が適切と判断し変更した。また、近年に策定された整備計画でも「河道」と記述している。
- 吉澤委員

「河道」という表現だと川の流れの道筋だけに読み取れてしまう。「河床」だと底質の礫とかの問題となり、最近では岩盤が露出し水産資源に影響が出ているところもある。
- 会長（清水委員）

吉澤委員の意見の主旨は理解する。構造物とか堰の周辺では河床の洗掘が心配だから、「河床」だと馴染むが「河道」だと馴染まない。表現方法については事務局で再考願いたい。
- 会長（清水委員）

(P4)整備完了河川の頁は削除とのことだが、完成した旨の記載だけではなく、整備後の写真を載せたらどうか。
- 事務局

意見を踏まえ、写真掲載については検討したい。
- 会長（清水委員）

(P10)整備を予定する区間は、今後30年間でを行う予定のものなのか、もしくは当面行う予定のものなのか。
- 事務局

圏域内には、まだまだ安全度の低い河川があることから、社会状況や災害の発生状況等勘案しながら順次見直しを図り計画に取り組む必要があるが、今回の変更の主旨は、取り急ぎ利根川〔大臣管理区間〕との整合を図るべく、〔県管理区間〕を整備計画に位置付けたいと考えている。

なお、記載した整備予定区間について、利根川は整備延長も事業費も多大となることから30年スパンになるかと思うが、他の河川については残区間も少なく、平成34年までには完了する予定である。
- 宮田委員

(P34)地域の歴史的教訓や経験等から学ぶべき点は多々ある。過去の災害に関する教訓や氾濫被害等について住民へ周知を図るべきでは。
- 事務局

防災意識を風化させないように、大きな洪水が起こった場合は洪水記録を作成し、新聞記事・写真等も掲載している。

- 宮田委員
それだけでなく、地域に伝わる、体に伝わっていることが聞き取り調査等から得るものがある。雨水等の記録だけだと住民に伝わりにくい。生存している人から次世代へのカスリン台風等の伝承も重要と考える。
- 会長（清水委員）
群馬県としては出水に対して記録を残しているようだが、それだけでなく出水の経験についても風化することなく繋いでいくということも大切である。
- 事務局
災害等の伝承については、ご意見を参考に記載方法を検討したい。
- 林委員
(P9)汚水処理人口普及率の内訳を入れたらどうか。下水道の普及率は一般的にも把握されているが、農業集落排水が遅れている地域もあり、確認する上でも掲載した方が良いと考える。
- 事務局
汚水処理人口普及率の内訳一覧は、群馬県ホームページに掲載されているため閲覧可能である。本中に内訳一覧を掲載するかは検討したい。
- 林委員
(P14 ほか)各河川に「何年に一度の洪水」と表記されているが、どれだけの雨が降るとどれだけ水位が上がるとか、河川改修をすればこれだけ水位が下がるとか、一般にも解り易い表現にしたらどうか。
- 事務局
表現の変更は他の整備計画との統一が図れなくなり難しい。治水安全度については、個々の河川事業の説明会の中で、一般の方には丁寧に説明していきたい。

4. 事務連絡

- ①今後のスケジュール
- ②意見回答の集約
- ③議事録の確定

5. 現場視察

①利根川

福島橋から上下流の現地状況を確認しながら、事務局より整備方針等について説明。

②寺沢川

清水橋から上下流（下流：整備済、上流：今後整備予定）の現地状況を確認しながら、事務局より整備方針等について説明。

6. 閉会

(以 上)

署名 清水 義彦